

日本クリスチャン・アシュラム連盟

Founded by Eli Stanley Jones

夏季号

JESUS IS LORD



日本アシュラム

SUMMER 1990 United Christian Ashrams of Japan 71

開 心・静 聴・充 満・献 身・奉 仕

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって。常に新しい地区(単位)の参加を期待している。



D・P・タイタス師を迎えて

全国アシュラム創始三十五周年記念

日本アシュラム連盟総務理事 大石 嗣 郎

一〇年一日の如くと申しますが、一九八〇年一月東山荘にてD・P・タイタス師をインドより迎えて、第二五回記念を盛會裡に済したかと思つたら、もう本年九月に全国アシュラム創始三五周年記念を再び同師を迎えて箱根アカデミーで致します。日本クリスチャン・アシュラム連盟に私が関係して、休む間もなく第三回国際アシュラム(一九七八年)を各国アシュラム指導者を一堂に招いて以来、すでに今年には第八回国際アシュラム・カナダ大会をハリファクスにて迎えます。今、静かにアシュラムに身を投じて内外の集會準備の裏方として奉仕させて頂いた恵みを、心から感謝しております。

三五年前の日本及び日本のキリスト教界の状況は、戦後の混乱の中から立ち直るために、各教会は戦前戦中に失ったものを、まるで失地回復の思いで夢中になって伝道した。しかし、その熱心さは認められるものの、各派各教会がばらばらであって、纏

りを示すことなくやっているのを、今は亡き世界の靈的指導者S・シヨンス博士が気付いた。

最初からのアシュラム精神は「耳ざわりのよい話をして貰おうとして、自分勝手な好みに任せて教師たちを寄せ集め、作り話の方に連れていく時が来るだろう」(Ⅱテモテ四・五一六)の警告に聞き、兄弟姉妹をその所属する教会をその牧師のもとに、好むと好まざるとにかゝわらず戻すことに専念し祈り続けた。アシュラムに出席し共に生活することにより、色々な「時」を通してその変えられることにより、自分の教会を愛し自分の牧者のために「その汗が血の滴りのように地に流れる(ルカ二二・四四) 思いをもつての祈りの経験が、日本全体の教勢の進展に寄与していることが数字に表われる今日です。

「日本アシュラム」が発刊(一九七二年九月)されて第七〇号に及んでおり三五年間を瞥見するに、多く

の人々の支えと祈りによって連盟が存続してきたことを必々と感じます。生存される理事を除き、高瀬恒徳師、谷本清師、宇都宮充師、山根可成師らの諸師らは実に忠実にアシュラム精神を超教派の下で働き協力して下さったことを改めて感謝します。

一方国際アシュラムも第一回エルサレムに続いて、英国、ドイツ、北欧、西印度諸島、韓国、台湾などを念頭に入れて、今後アシュラム未踏の地に助言者を、日本各地ばかりでなく地の果まで遣わす所存ですので、アシュラム同志の祈りと具体的奉仕を切に求めます。

今年九月二三日より二泊三日の箱根アシュラムに是非参加し、恵みを豊かに受けて下さい。更にこの運動が発展するよう資金的支援をお願い致します。連盟自体として資金づくりに出版事業を営んでおりますので、小グループでも大いにご活用下さるよう、ご吹聴をお願い致します。

記念感謝献金のお願ひ
日本アシュラム満35年記念の全国集會を開催するために諸経費が少く共金二〇〇万円を必要とさせていただきますので、同志の特別な御協力を切にお願い申し上げます。

編集人 淵江 淳一郎
発行人 大石 嗣郎
定価 一部60円
〒60円

今年六月・カナダの東部で 国際アシユラム開かる

世界アシユラム60周年
を記念して

国際アシユラムは四年毎に開くことになってはいるが、今年は丁度スタンレー・ジョーンズ博士がインドでクリスチャンのアシユラムを初めて守ってから満六十年に当るので、六月13日から17日までカナダの東部ハリファクス市の聖ビンセント大学において開かれる第八回国際アシユラムの中で、第三日目の夜には、60年記念祝賀会が開かれ、各国の民族衣装で、各国の報告、テーマソング、舞踊、茶菓、装飾などが演出され、別室には各国のアシユラム関係の記録、写真、集案案内、ポスターなどの展示場が設けられることになった。この度の国際アシユラムの仮順序が来たので、その主要部分を掲げ、御参考に供することにした。

第一日(13日) 参加登録、夕食、歓迎の言葉、参加者紹介、開心の時(用意と開心(マシウス師) 沈黙。音楽、聖書の時(マクドガル師)、アシユムの活動(北欧組) 福音の時

(フェルグー師) 中食、湾内周遊、祈りと分ち合いの細胞、夕食、音楽、証しの時(二名) 福音の時(カマルソン師) 映画(アシユラムの経験)

第三日(15日) 静聴、朝食、音楽聖書(レイコック師) アシユラムの拡大方針ワークシヨップ、福音(ハンター師) 中食、湾内周遊、祈りの細胞、夕食時(第60周年祝賀会) 世界各国代表の挨拶、その他。

第四日(16日) 静聴、朝食、音楽聖書(レイコック師) 祈りの細胞、福音(B・H・カン師) 中食、バスで大西洋アシユラムへ、夕食、証し(日本他) 福音(カマルソン師) 医師の時、各国の活動ビデオ。

第五日(17日) 聖さん式(バーク師) メッセージ(シーマンズ師)、沈黙の朝食、祈りの細胞、聖日礼拝(説教カマルソン師) 充満の時(マシューズ師) 中食、送別会。

・連鎖祈禱の係 タッカー夫人。以上のプログラムで進められるが、本紙を七月初めに刷り上げるため、仮順序によって記したわけ、日本からの有志参加者九名が帰国してから、実際に各国の兄弟姉妹と共に主

に在る交わりを通して、どんなに恵まれてきたかは、次号に発表することができよう。

アシユラムの守り方(5)

海老沢 宣道

祈りの細胞

最初の「開心の時」に全員は、参加した理由、現在の必要(ニード)を述べるのだが、それによってお互いの願いを知り、同じ主に祈る信仰の友としての兄弟愛が生れる。参加者の多い場合、全員が発言する時間がないこともある。そこで参加者を預め、十名以内の小分団に割当て、小室に別れ、座長の司会で、この「祈りの細胞」の時を持つ。ここでは座長が司会して、讃美歌、聖書、祈禱と、座長から自己紹介とニードの告白を二・三分以内にまとめ語り、右隣りへ廻る。各自は特に右隣りのニードをメモしておき、一巡したら、また座長から右隣りのために執成し(助け合い)の祈りを捧げ、二巡して終り、讃美歌、主の祈りを以って閉会する。

祈りに就て説明する時ではなく、実際に主に向って祈るなら、御言が肉体となって宿られる。この期間は期間中に毎日一回は設けられるので、主の御声を聴き、靈化を受けるにつれ、ニードも靈的に高められてゆくであろう。

連鎖の祈禱

午後十時から翌朝六時までを全館内「沈黙の時」とし、祈禱室を設け一時間毎の時間表を掲示して、各自が希望する時間帯に記名し、その時間、密室の祈りをする。祈りの細胞の時とはちがって、この夜半には独りで主イエスを仰ぎ、個人的にお取扱いを受ける時である。これによりアシユラムは開会から閉会まで祈りに終始する集まりとなる。ここでは聖書を読むよりも黙想し祈り、御声を静聴することが望ましい。これはアシユラムの大動脈である。主がマタイ福音書第六章五節以下に教えて下さる「密室の祈り」を実行することによって、父なる神との交わりを常時不常に保持し続ける人間へと造り変えられてゆく。

祈禱委員によりノートが用意されている時は、各自の祈りの要点とこのアシユラムの間に主から受けたお答えや、兄弟のための執成しや、恵みの感謝を記入しておく。

もし一時間が過ぎても次の人が来ない時は祈りを続け、バトンタッチをして静かに自室に戻って休む。

委員長や祈禱の係は、後日もこれらのノートに良く目を通し、尚助けを要する人のために祈り続ける必要がある。

『イエスは主である』

(ロマ書十章九節)

アシユラムの五大原則

好評・三版出来
海老沢宣道著
「アシユラムの原則と実際」

アシュラム発祥の地から D・P・タイタス師を 迎えて

海老沢 宣道

開祖スタンレー・ジョーンズが初めて、クリスチャン・アシュラムを守られた発祥の地、インドのヒマラヤ山麓にあるサトタルの山荘から、そこに常住の指導者、D・P・タイタス師が、今秋九月23日から箱根のアカデミー・ハウスで開かれる日本アシュラム開始三十五年記念の全国アシュラムに、特別助言者として来援されることは、主が備えられた得難い恵みの時として、心から師を歓迎し、主をさんびしたいものである。タイタス師の横顔については本紙前号で紹介してあるが、少年期に孤児となったが、宣教師に救われ、ルーテル教会で養われ、英国教会で信仰が芽ばえ、アッセンブリーで回心、受洗し、十数年の公務員時代にアシュラムに参加、献身してメンジストの牧師となった人である。

二十数年の牧会伝道の後、開祖の勧めにより、サトタル山荘に常住、全インドから集まる超教派の集会の指導に当り、また各地の招きに応じて伝道に退修の指導に奉仕されているが、彼ほどスタンレーと起居寝食を

共にし、アシュラムのために長年奉仕した人は少ない。

スタンレー・ジョーンズ師が一九七一年の日本伝道を最後に、米国内クラホマ州のアシュラム中に倒れ、

インドの病院から召天されたのは、一九七三年一月で、既に二十年近い才月が過ぎようとしている。この開祖から直接の指導を受けた人が年と共に少なくなっており、また欧米やわが国の指導者の中にも幾人かは残っているが、アシュラム精神の理解

と実践において、多少の変化や自己流の解釈がなされているように思われる時、インド人クリスチャンで、スタンレーの直弟子となり、アシュラムの真精神を体得している彼D・P・タイタス師から大いに学びたいと願う者である。

今日まで七八年秋の第三回国際アシュラムと八〇年秋の日本の25年記念退修会の二回来日されたが、私は八〇年夏サトタルでの世界アシュラム50年記念と八二年夏フィンランドでの第五回国際集会でもお交わりを得た案しくも感謝すべき思い出がある。今秋八年ぶりに五回目の交わりを頂き、アシュラム運動の原点を正しく体得したいと祈っている。

(三) リント第一書 十二章 三節
(四) ビリ書 第二章 十一節

- (一) 徳言への驚嘆と工画
- (二) 聖霊の啓導と充満
- (三) 神の国の体験と献身
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五) 教会への奉仕と伝道

ジョーンズ先生を偲んで

土山 牧 羔

私は、一九六七年に四十日間と、一九七一年に一六日間の二回にわたって、先生の通訳として共に親しく伝道旅行をする機会が与えられた。

先生の公的な活動の思い出については、一九八三年の本誌に記載したので、今回は先生の個人生活について記したい。

第一に、先生は、今日の世界の中で、聖書と祈りによって、聖霊に生かされて活動した使徒の一人であった。午後四時頃になると、庭や野や林に出かけて、天を仰いで独り祈り黙想する姿を見かけた。若き日にアズベリー大学のリバイバルが産んだ子であることは、生涯を通して変わらなかつた。

第二に、靈魂の中は保守的でも、頭脳においては進歩的であった。今日の国際的、社会的、政治的諸問題への知的な眼が開かれており、そこに生きる人々への学問的な現実的対策を、福音に基づいて常に心がけていた。

第二に、先生は伝道の情熱の人であった。大衆伝道で決心者を募るだ

新書半5頁 個三百円77円
スタンレー博士に親しく指導を受けた著者がアシュラムの五大原則と守り方を平易に解説。

けでなく、市長などを訪問しても、「クリスチャンになりませんか」と常に個人伝道的に勧めていた。

第三に、先生は時間を惜しむ人であった。空白の時間は、無為に過ごさないで、いつも原稿を書くのに精を出していた。著述のため以外は、決して休暇を取らなかつた。

第四に、先生は克己に励み、金銭を節約する人であった。快適なホテル宿泊を避けて、費用の安い日本旅館を好み、座るのに困難な畳の部屋を厭わなかつた。列車では食堂車の食事を好まず、最も廉価な駅弁当を座席で食べた。レストランでは美食を注文せず、低価のランチ定食で満足した。莫大な著書の印税の収入を、神の預り金として無駄に消費しないで、世界伝道のために大切に使用した。自分を楽しませることは何もせず、すべてを伝道と、福音を現代世界の中で立証することに捧げて、献身の生涯を全うされた。



全日本アシュラム 35周年記念 教職アシュラム(案)

9月28日(金)	
A.M.	
9:30	受付開始
10:00	オリエンテーション 渕江
10:30	開心説教 タイタス
11:30	自己紹介
12:00	昼食 交り 大石
P.M.	
1:00	静聴の時 向山 分かちあい
2:00	祈りの細胞
3:00	充満の時 海老沢
4:00	解散

全日本アシュラム35周年記念 ▼教職アシュラム▲

全日本アシュラムを箱根アカデミー・ハウスにて了えた後、連盟ではD・P・タイタス師を迎えて、左記の如く教職アシュラムを計画している。

日時 一九九〇年九月二十八日(金) 午前十一時―午後四時
会場 一〇〇〇円(当日会場持参) 52目黒区中央町1-22-10
及 碑文谷教会 大石嗣郎
申込先 T1 〇三(七二二)五七五八
連盟では特にアシュラムに未経験な教職の参加を歓迎いたします。官製はがきにてお申込下さい。

城西アシュラム予告

本年の城西アシュラムは、この秋全日本アシュラムが九月二二―二五日箱根アカデミー・ハウスで催された後、左記により開催の予定である。

年月日 一九九〇年十月十日(体育) 会場 日キ教団大宮前教会
杉並区宮前二-二-一八
叡荻窪駅下車南口バスで
川南停留所下車徒歩十分
会費 一〇〇〇円(当日払込可)
申込先 T1 66杉並区高円寺北
二-三三-五七
日キ教団高円寺教会
草村 美師
電話三三〇一〇〇五二

第三回バルナバアシュラム報告

世話人 石神 勇

第三回バルナバ、アシュラムは五月三日(五日八王子附近のラ・サール研修所で定員七〇名を突破して八二名の参加者を与えられて開催された。北は札幌から岩手へ、南は中国、四国から名古屋からはせめて下さった。主題は「主よ、見えることです」としヨハネ書九章を中心に、ヨハネ講解書の著者淵江淳一師の「聖書の時」を三日間学び、みことばの説き明しを受けた。今回は「証しの時」を三日間設けて聖霊の人戦斗的伝道者としての山谷ドヤ街の森本春子牧師の聖霊の働らきをもっと見せて頂き一同大きな感激、感動を受けた。聖霊の言葉はよく口に、聖霊の話は聞くが、聖霊の働らきを目をもって見せられたのは始めての人が多く、自らを省りみて末だ「見えていない」自己の姿を感じた者も多かった様子であった。静聴の時もヨハネ書からの淵江師の話題によった。会費は一六千円、個室に入った半数の方は一七千円、収入総額一三〇万円、その内席上献金一八万余円を与えられ、幸赤字にならずに済んだ外残額は定員七〇名を与えられた事を感謝して七万円は三五周年記念日本アシュラムに献金させて頂いた。

感謝。

献金報告

七十号以后には通常には入金ありません。以下は35周年特別献金者(金額) 順不同

- 山本 繁夫 五〇,〇〇〇
- 渕江 淳一 三〇,〇〇〇
- 海老沢宣道 二〇,〇〇〇
- 海老沢マス 一〇,〇〇〇
- 関山 園子 二〇,〇〇〇
- 滝 栄子 五〇,〇〇〇
- 中根 幸子 五〇,〇〇〇
- 三井賢太郎 五〇,〇〇〇
- 中野 幸子 三〇,〇〇〇
- バルナバ・アシュラム セ〇,〇〇〇
- 石神 勇 三〇,〇〇〇
- 安藤 栄慶 三〇,〇〇〇
- 田中 ゆう 一〇,〇〇〇
- 大石 嗣郎 一〇,〇〇〇

総計 三四三,〇〇〇円
以下十四名
一九九〇年八月一日(大石)

サトタル・アシュラム指導者
D・P・タイタス著
植村 俊雄 訳

「御国を来らせ給え」

神の国に就ての研究

A6判40頁定価二百円千72円
スタンレーの後継者インドル
タイタス師の名著

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて創始され、クリスト教の新しい祈禱生活運動である。

東京都目黒区中央町1-21-10
日本クリスチャン・アシュラム連盟
碑文谷教会気付
辰野コウ丞東京〇一四五五八番